《 学校経営の要諦（Ⅷ）》

授業改善の実際的な進め方

《改善手順等の「見える化」》

　自校の授業水準を高める手順・方策の前提になるのが，改善方針・方策についての「見える化」です。どのような姿を目指して，どのような手順・方策を具体化しようとしているかの「見える化」（ペーパー化）を行うことによって，教員全体にとって用語概念の統一や行動内容が明確になります。

　また，シラバス，授業相互観察関連資料，振り返り関連資料，データによる結果検証などの実際の場面で使うものも，少し誇張して言えば，それらの全てを「見える化」（共有化）して，校内ラン等も活用して全員共有・全員活用の状況にしておくことが必須だと思っています。

〔１〕　目指すべき授業像を明確にする

◆　「目指すべき授業像」の前段となるべき，「目指す生徒像」「生徒に付けるべき力」の明確化につい

ては，広島県の場合，《学びの変革の推進》によって，各学校で「育むべき資質・能力」を明確にする

ことと，その資質・能力の育成と全教科・科目の授業内容を関連付けることまではすべての学校で

（濃淡の差はあっても）できている状況だと思っています。

◆　そうした状況を踏まえて，各校としての「目指すべき授業像」を明確にして，教科ごとの工夫点等

も整理しながら学校全体としての歩調を合わせながら，授業の実現したい姿を「見える化」すること

が大事になります。

◆　「目指すべき授業像」を明確にするに当たって，ICT対応による工夫した授業の姿を，通常の授業

の中にどのように位置付けるかは学校状況による差異が大きい面がありますが，最終形としての

《生徒全員が個人用の端末機器を持って授業に臨み，授業中も活用している状況》をイメージして

おくことが必要だと思われますし，それを想定しながら現在の段階でどのような活用を行うかの整

理ができておくことが必要です。

〔２〕　一年間サイクルのPDCAの設定にする

◆　授業改善は，「生徒に付けるべき力」「目指すべき授業像」などに関する校内研修と一体的に取り

組むことが必要であることと，年間授業計画・単元授業計画・定期考査設定などとの整合性が大

事になるので，一年間の取り組みとしてのPDCAサイクルの具体像が共有できるようにすることが

必要です。

◆　PDCAサイクルを機能させるには，実際に立てた計画に基づいて実践することと，その実践内容

ごとの評価に加えて，サイクル全体としての評価を意識して行うことが重要になります。学校現場で

は，しばしば，計画・実践までは労力を掛けて行っても分析・評価を充分に行わない傾向があると思

っていますので，個々の場面での振り返りだけでなく，組織的全体的な振り返り（分析・評価）を行

うことが重要です。

〔３〕方策①　授業相互観察を組織的に徹底する

◆　改善方策としては，「授業観察シート」を整備しての相互授業観察が機能することが必須です。授

業改善が進まない学校では，複数回の授業観察を計画的に設定してあるものの，その徹底度が不

充分な例が多いように思っています。

⇒　◎教員全員が参加し，相互評価を行う仕組づくり　・・・　小グループ設定（教科内・教科外等）

◎観察実施状況・事後相互協議内容などを一枚ペーパーにして全体報告

（担当部署が全体まとめ）

◆　校長（管理職）による授業観察は，「授業観察シート」を用いて観察評価結果（コメントも含む）を

本人に還元するとともに全体にも公表する姿勢がポイントだと思っています。校長が，どんな内容・

展開の授業を高く評価しているかを教員に伝えることは格別に意義を有すると思っています。（参

照：★授業相互観察＞授業観察シート）

◆　村上は授業観察に一定のこだわりをもっていて，府中高校の時には年に2回の授業観察時期に

非常勤講師を含む全教員の授業を時間枠一杯掛けて観察し，授業観察シートには数値評価も含め

てコメントを書き込んで本人に還元するとともに校内ランに全員分を掲載することを在職6年間

行ってみました。また，グループによる相互観察を行うようにしてからは全てのグループの事後協議

を一緒に行いました。継続的に関わっていると教員個々の授業水準の向上努力・工夫が実感でき

るとともに気付きを指摘できる場として意義は大きかったように思っています。

〔４〕方策②　授業のビデオ映像を活用する

◆　臨時休校時にオンライン授業が数多く試みられた状況もあり，自分や他の教員の授業の様子をビ

デオ映像として観る機会も増えたことと思います。それ以前では，自分の授業をビデオ映像化する

ことにかなりの抵抗感があった教員も多くいたのも事実だと思っていますし，今でも抵抗感を持つ

教員は多くいると思っています。

◆　臨時休校時に試みられたオンライン授業は，映像として生徒に提示されることが既に前提になっ

ているので，通常の授業をビデオ映像化するのとは次元が異なると思っています。通常の授業は生

徒と一体的に形づくるものであり，そのことを前提に映像に記録する意義があると思っています。

◆　府中高校で行っていた方式は，授業観察と一体的に行い，万一当該授業観察に参加できなかっ

た教員も事後に観ることができる仕組み（校内ラン活用）にしていました。主な目的は，本人自身が

自分の授業観察・振り返りを行うことができることと，良い授業実践を紹介し合ったり研修会で扱

ったりできることにあり，効果は大きかったと思っています。

〔５〕方策③　定期考査・単元テストと連動させる

◆　授業の目的は生徒にしっかりした学力を付けることにありますので，その定着状況を検証する定

期考査問題・単元テスト問題の在り方と連動させて改善を図ることも大事になります。（参照：★活

用・合教科・探究問題＞活用問題の事例）

◆　知識・技能の定着度を測ることを主眼としていた従来型の考査問題から脱却して（知識・技能の

定着も大事なテーマですが・・）思考力・判断力・表現力をみることもかなりの程度まで入れ込んだ

形態，或いは，知識・技能に関する問題と思考力・判断力・表現力をみる問題とを一体的に扱う形

態などにすることを前提に（予め問題を作成しておいて）授業でどのような力を育むことに力点を

置くのかを組み立てることが，授業水準の向上には大いに役立つと思っています。

〔６〕方策④　生徒による授業評価を活用する

◆　生徒による授業評価は，どこの学校においても行われていると思っていますが，大事なことは，そ

の評価項目の内容・結果が当該教員の授業改善に資するものになっているかどうかの吟味と，教

員個々の集約結果を公表して，教科内できちんと分析し合って，さらにその結果も校内に公表し合

って，学校全体としての授業改善の資料として経年的に積み重ねていくことだと思っています。

《まとめ》

◆　ここで紹介した以外にも授業改善の方策は「研究授業の設定」「授業指導案の検討会」など幾つ

も在り得ると思っていますし，学校実情（生徒状況・教員状況等）によって方策の在り方も変わって

くるものと思っています。

◆　これらの方策は，一つ一つの方策を個別に（バラバラに）取り組んで水準を上げようとするより，

一体的に繋がりを持ったものとして同じ年度内に意図して水準を高めるやり方が効果的だと思っ

ています。〔参照：★校内研修＞カリ・マネ〕

◆　村上の感覚的な見当では，この「授業改善サイクル」を2年間継続して機能させることができれば，

授業改善の仕組みづくりとしては，概ね定着することができると思っています。

《参考》　・・・　〔★授業改善の考え方・具体〕

『府中高校　授業改善の取組方針』　　　　　　『府中高校　〔深い学び〕に繋がる「授業改善サイクル」』





（令和２（2020）年７月26日）